地域に根ざし、充実した留萌市立総合病院をめざして

移転改築にあたっての基本方針について

基本方針

市立総合病院がこれまで地域で果たしてきた役割を更に充実させ地域に一層根ざした病院とするとともに、患者にやさしく、医学・医療の発展に対応できる病院をめざします。

現在の市立病院の狭あいな状況では患者の要求に対応していくことが難しく、新しい病院として療養環境の整備を図っていきます。

病床数 現行病床数（326床）程度と考えていますが、将来の療養型病床の設置、高齢化に伴う疾病構造の変化などによる病床数の増加に対応できる計画とします。

福祉との連携 高齢化社会を迎えた現在、医療と高齢者保健福祉とのかかわりは重要であり、現在計画敷地に隣接して民間の老人保健施設の建設が進んでいますが、関連施設と連携をとる必要があります。

②

薬剤関係 薬剤師数は現在、標準数に不足してますが、薬剤師の補充採用が容易ではありません。

院内の調剤数を少なくして薬剤師数の標準数を抑えるため院外処方せんを考えていくことも必要となります。

診療科目 現在の診療科目は内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科ですが、今後想定される診療科目としては呼吸器科、循環器科、形成外科、心臓血管外科などが考えられます。

将来の診療科目増加などにも十分対応できるよう配慮する必要があります。

関連施設 医師住宅、看護婦宿舎、伝染病隔離病棟などの建設も必要となります。

新システムの導入と体制づくり

各部門のシステムは、人、物、情報の流れをよくし、患者へのサービスを一層高め、効率のよい運営をしていくものです。

情報伝達のスピードアップを図り、『必要なときに』『必要な情報が』『必要な形で』伝達できる状況にしなければなりません。

声 VOICE

佐藤孝治さん(65歳)

11年前、札幌医大脳神経外科で脳腫瘍の手術を受け、そのスタッフに現在、市立総合病院脳神経外科の鈴木先生がいました。

患者さんとの対応がよく、大変研究熱心な人だと思いました。

今でも脳神経外科に通う私にとって大変心強く、医大のレベルでの治療・手術が可能となり安心しています。

医師からのワンポイント

アドバイス

今回は、産婦人科に4月からきています木谷医師に市立病院の医療、不妊症を中心にお聞きしました。

産婦人科医長
木谷　保　(31歳)

プロフィール

- 平成2年札幌医大卒
- 日本産婦人科学会認定医
- 優性保護法指定医
- 日本産婦人科学会、日本不妊学会、日本受精着床学会、日本母性保護産婦人科医会、日本臨床細胞学会などの会員

専門は不妊症、ホルモン、子宮内膜症、習慣性流産など、特に大学では対外受精-胚移植、ラパロスコープ（腹腔鏡下手術）など先端医療を精力的に行っていました。札幌医大、自治医大、釧路市立病院、函館五稜郭病院、帯広協会病院などを経て平成8年4月より市立病院に勤務。

留萌市立総合病院産婦人科の特徴は何でしょうか？

「札幌医大は元々、教授を中心に婦人科は腫瘍中心であり、産科・周産期科も独立していますので、癌の診断、治療、妊娠分娩の管理に関しては市立病院は大学レベルと思ってください。」

「また、膣式子宮全摘（開腹せずに子宮を摘出するので腹部に創がつかず術後回復も早い）に関しては世界のトップレベルです。」

よく、地方は最先端医療を受けられないと言われますが？

「ここに赴任する前は大学で不妊、ホルモンを中心に臨床や研究をしていました。その前は釧路、函館、帯広など全道各地を歩き、痛感したのは不妊症、ホルモンの専門家が非常に少なく最先端医療をうけるためにわざわざ札幌や東京に通っている患者さんが多いということです。」

「本来、同じ患者さんなのに札幌や東京と留萌などの地方都市とで医療に差があるのはおかしい話です。」

「私がここに赴任するにあたり目指しているのは周産期・腫瘍はもちろんのこと、特に不妊症、ホルモンに関しては、最低でも大学レベルの医療を行うことです。」

（木谷医師は大学では体外受精、顕微受精など先端医療専門です）

先生が留萌に来て新しく始めたことは？

「①は不妊症、ホルモン、子宮内膜症、思春期外来（―18歳以下の生理不順や生理痛などを扱う専門外来―）、習慣性流産、外来の充実、②はラパロスコピックサージュエリー（腹腔鏡下手術）です。開腹せずに内視鏡下に卵巣のう腫の摘出や卵管のゆ着剥離、形成術や未破裂であれば子宮外妊娠の手術も可能な最先端医療で、創も小さく4日程度で退院が可能です。③は精子洗浄法による人口授精です。（従来の方法より、はるかに成功率が高くなります。）④は子宮内膜症によるチョコレート嚢腫の経膣アルコール固定術。非侵襲的で1日の入院ですみます。」「大学から器具や培養液を持ってきて可能になりました。」

他には？

「患者さんのことを考え、特殊なケースを除き、全例自然分娩ですし、開腹手術後などの抜糸のない縫合（美容形成外科的な縫合）など、他にも細かいことですが患者さんの利益を第一に改良していきたいと思います。また、帝王切開を改良型の横切開でします。困難なため北海道ではあまり手術が行われていないが、これらは東京やアメリカで頻繁に施行されています。」

（横切開―たとえば水着など着る場合創は見えません）

最近の産婦人科での症例傾向は

「結婚年齢が高くなっていることで不妊が多くなっているようです。また、子宮内膜症も多くなっています。」

「結婚後、妊娠を希望して2年以内で9割の人は妊娠しています。2年を超えたら不妊について考えてみてください。」

不妊症で悩んでいる方に

「不妊症は早目に専門病院へ。時間がたてばたつほど難しくなります。」

「昔は不妊症については、あまり専門とする医師はいませんでした。」

（木谷医師は札幌医大で若手医師に最先端医学を教えていました。）

市立病院の利用について

「最近、不妊の患者さんで札幌、旭川などに行っていた方が市立病院を利用しています。」

「私も3月まで大学で外来をやっていましたが、かなり遠方（稚内、釧路、函館など）から患者さんがいらしてましたが遠方ということでいろいろ制限もされます。（時間の制限、経済的負担など）

市立病院でも日本の最先端医療、大学レベルの医療をできると考えています。」

子宮内膜症

症状は、生理痛が年々強くなり放っておくと子宮や卵巣が腫れてきて腸管などとゆ着し、慢性的な腹痛や腰痛、不妊の原因になります。